

第2学年 国語科「お手紙」

◆本時の指導（第6時／全12時間）



(1) 本時の目標

かえるくんの行動やその理由、表情、口調、様子などを想像することができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時の学習を振り返る。 2 めあてを確認し、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> じんぶつのしたことやようすをそうそうし、音読のくふうを考えよう。 </div>	・役割音読をしたことを思いだし、本時でも役割音読をすることを伝える。
展開	3 役割音読をする。 ・「ナレーター」「かえるくん」「かたつむりくん」に分かれて音読をする。 4 かえるくんの家での様子について想像し、音読の工夫を考える。 ・なぜ「かえるくん」は大急ぎで帰ったのかを考える。 ・なぜ「かえるくん」は「かたつむりくん」に手紙をたのんだのかを考える。 5 役割音読をする。 ・音読の工夫をひまえて、「ナレーター」「かえるくん」「かたつむりくん」に分かれて音読をする。	・「2. かえるくんの家」P.15L4～P.17L2の役割音読を行う。 ・教師の範読に合わせて、かえるくんの行動を動作化させる。 ・文に主語がなく、短文になっていることや、「出ました。」と「とび出ました。」ではどのように様子が違うのかなどに着目させ、「かえるくん」が急いでいる様子を捉えさせる。 ★友だちと話し合っ音読の仕方を考えるとともに、友達と役割を分担して、すすんで音読をする。 <div style="text-align: right;">  </div> ◇かえるくんの行動やその理由、表情、口調、様子などを想像している。（記述・発言）
まとめ	6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・本時の音読で考えた工夫や気づいたことを共有し、次時にがまくんの家でのことを音読することを伝える。

◆ 成果と課題

【成果】

グループでの音読劇の発表に向け、友達と話し合いながら音読の仕方を考えることが、友達の考えを知るにつながっていた。また、グループの中で役割を決めて音読することで、お互いに読み方を聞き合い、さらによい音読をしようという意欲につながっていた。

【課題】

「主語がなく、短文でつながっていることかえるくんが急いでいる姿を表している」ということをおさえきることができなかった。登場人物の心情を捉えるために、教科書の文から根拠を見つけることは、次学年においても必要な技能のため、今後も指導をしていく必要がある。

第2学年 国語科「かん字の読み方」

◆本時の指導（第1時／全2時間）



(2) 本時の目標

漢字にはいろいろな読み方があるということを理解し、読み方に気を付けて文の中で正しく使うことができる。【知識・技能】

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 P.29の例文を読み、同じ漢字に複数の読み方があることを理解する。 2 めあてを確認する。	・例文を声に出して読ませるとともに、「九」と「日」に着目させ、読み方の違いを確認させる。
	かん字のいろいろな読み方について考えよう。	
展開	3 「九」と「日」の漢字を使って書き表す言葉を集める。 ・「九」…九回、九時、九つ、九まい ・「日」…日光、一日、夕日、日曜日 4 P.30「上」「下」の漢字を使った文を読む。	・思いつかない児童には、教科書の文の中で、どんな読み方をしているのかを確認させる。 ★生活経験から様々な言葉を集め、漢字の読み方について考える。  ・文中での読み方を書いたり、文を読んだりして、同じ漢字であっても読み方が違うことに気付かせる。 ◇漢字にはいろいろな読み方があるということを理解し、正しく使っている。（ノート）
まとめ	5 漢字の読み方について振り返り、まとめる。	
	同じかん字であっても、いろいろな読み方があり、ことばによってちがう読み方をすることがある。	

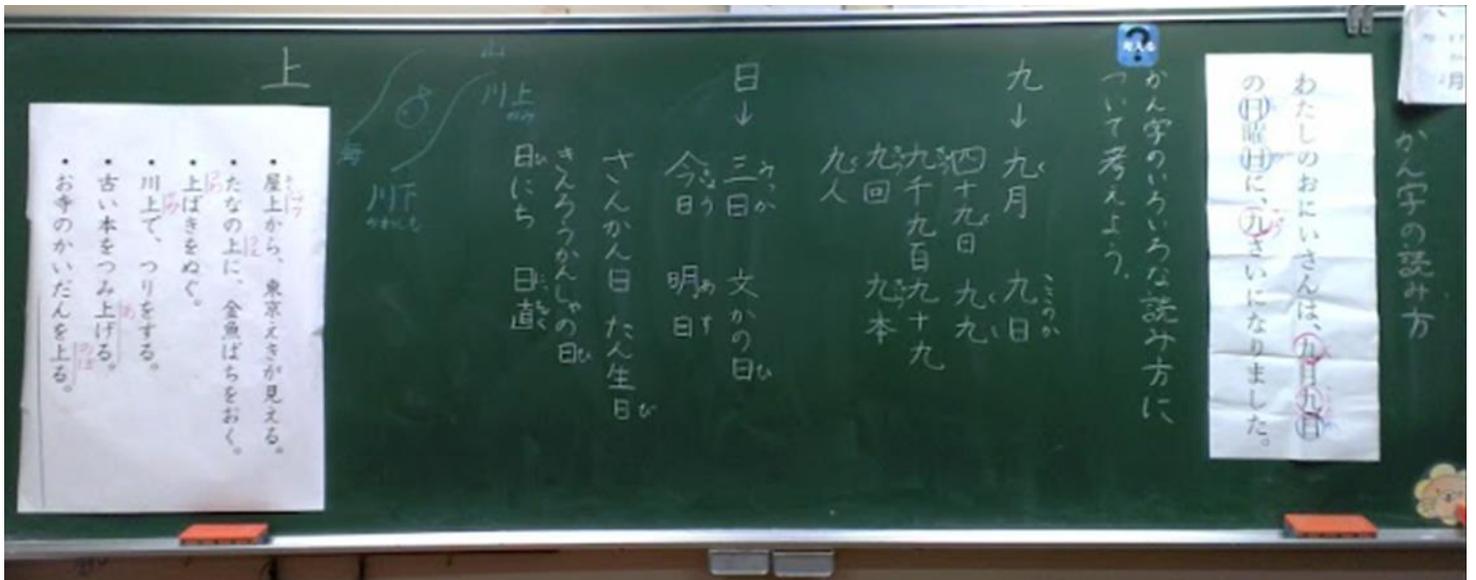
◆ 成果と課題

【成果】

生活経験から、いろいろな読み方をする漢字について考え、言葉を集めることができた。日頃の新出漢字の学習にも音読み、訓読みなどをおさえることに生かすことができた。

【課題】

友達との意見の交換は本時ではできなかったため、次時に生かす。問題の中には、児童が知らない漢字もあった。一つ一つの言葉をおさえる中で、児童の語彙を増やすことにつなげる。今後の新出漢字にも、読み方について取り上げ、漢字への関心を高めたい。



第2学年 国語科「かたかなで書くことば」

◆本時の指導（第1時／全2時間）



(1)本時の目標

片仮名を書くとともに片仮名で書く語の種類を知ることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<p>1 片仮名で書く言葉を振り返り、めあてを確認する。</p> <p>2 片仮名で書く言葉の種類について理解し、片仮名を使う言葉を集める。</p>	<p>・これまでに片仮名を使って書いてきたさまざまな言葉を確認させる。</p> <p>・見つけた言葉をカードに書かせ、黒板に貼らせる。</p> <p>・片仮名を使った言葉を見つけられない児童には、他教科の教科書や絵本の中から、片仮名を使った文を探させる。</p>
	<p>かたかなを なかま分けしよう。</p>	
展開	<p>3 仲間に分けられたカードを見て、どんな仲間なのかを考える。</p> <p>4 見つけた片仮名の言葉を4つの仲間に分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライオンの鳴き声は「ガオー」だ。 ・「ザーザー」は雨が降る音です。 ・「アメリカ」は外国の名前だ。 ・「レストラン」は外国から来た言葉かな。 <p>5 仲間ごとに片仮名で書く言葉を集める。</p>	<p>・教師が分けた片仮名で書く言葉の4つの仲間を見分けさせる。（電子黒板）</p> <p>・2で見つけたカードを、話し合って4つの仲間に分けさせる。</p> <p>・どんな仲間なのか考えた後、教科書で4つの片仮名で書く言葉の種類を確認する。</p> <p>★これまでの経験から集めた言葉を、友達の間を聞きながら分類する。</p>  <p>・4つの仲間ごとに、片仮名で書く言葉をたくさん集めさせる。</p> <p>◇どんな言葉の種類を片仮名で書くかを知り、見つけることができる。（プリント）</p>
まとめ	<p>6 片仮名で書く言葉の種類について振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>・次時に見つけた言葉を使って文を作ることを伝える。</p>

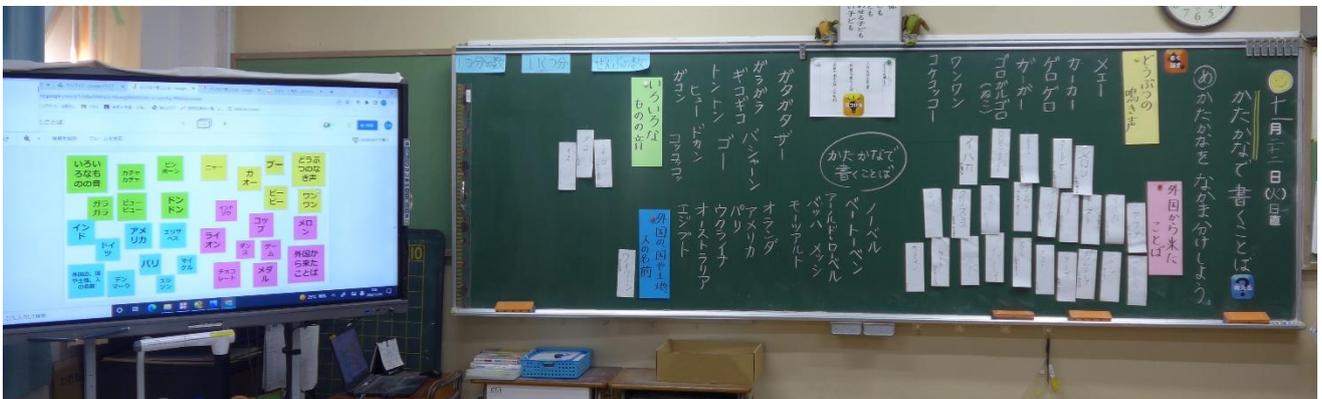
◆ 成果と課題

【成果】

関わりを多くするために、「個人での思考、学級で共有する」「課題をグループで解決する」「学級で共有する」「個人で思考する」という流れで行った。そのため、自分の思いや考えに自信をもって伝えたり聞いたりしようとする姿が多く見られた。

【課題】

考えや気持ちを聞いたり伝えたりする活動を多く入れたため、活動内容が多くなったしまった。話し合いの中で友達の考えに興味を持ったり、自分自身の考えに気付いたりする活動を入れることも大切であるが、教科のねらいを達成するための時間配分を考える必要があった。



第2学年 国語科「そうだんにのってください」

◆本時の指導（第1時／全7時間）



(1)本時の目標

学習の見通しをもち、関心をもって相談事の話し合いに取り組もうとすることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 教材名を読んで、学ぶことを想像する。 2 単元のめあてを設定する。	・みんなで話しをつなげることを学んでいくための学習の仕方を確かめさせる。 ・相談を出し合い、友達の相談を聞いて考えを出し合わせる。
	<単元のめあて> 友だちのそうだんことを聞いて、考えを出し合おう。	
展開	3 教材を読み、大体の学習の流れを確かめる。 4 相談したい話題について、考える。 ・休み時間にどんなことをして遊ぼうかな。（これからすること） ・勉強のことを相談したいな。（学習のこと） ・ボールをうまく投げられないから聞いてみたい。（苦手なこと） ・家族の誕生日プレゼントをどちらにしようか迷っている。（悩んでいること） ・CUPSの動きがよくわからないから、練習の仕方を聞いてみたいな。（困っていること）	・困ったことがあったときにどのようにして解決しているかを思い出させる。 ・必ず解決させることが重要なのではなく話し合っ解決を図ろうとすることが重要になることを理解させておく。 ・学習用語「話題」についてP164を参照させて確認する。 ・マッピングなどで考えを広げることができるようにさせる。 ・話題について、家族のことや地域のことなど話題が多岐に広がるのが考えられるため、プライバシーに関わる話が出ないように注意して、話題を決めていくことを確かめておく。 ・話題が思いつかない児童には、もっとできるようになりたいことやできなくて困っていることを個別に問いかける。 ◇学習の見通しをもち、関心をもって相談事の話し合いに取り組もうとしている。（発言・ワークシート） ★自分自身の生活を振り返ったり、友達の意見を参考にしたりして、どのような課題があるか見つけることができる。
まとめ	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・相談する話題について、自由に考える時間をもたせる。 ・次時に相談する話題を決めるため、考えられる話題をたくさん書き出させる。



◆ 成果と課題

【成果】

友達の意見を参考にすることで、課題を見つけるときのポイントを把握できた。自分自身を振り返っても相談したい話題をなかなか見付けることのできない児童にとって、学級全体でマッピングしながら振り返り、考えを広げていくことは効果的であり、自信をもって活動に取り組むことができた。

【課題】

考えが広がりすぎてまとめられない児童のために、広がった考えを集約していく時間を作る必要がある。

第2学年 国語科「ともだちをさがそう」

◆本時の指導（第1時／全2時間）



(1)本時の目標

人物をさがすための手がかりとなる特徴を見つけることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 話を聞くときに気を付けていることをふりかえる。 2 本時のめあてを確認する。	・これまでの経験を振り返ることで、大事なことを落とさずに、話したり聞いたりすることの必要性を感じさせておく。
だいじなことをおとさずに、話したり、聞いたりしよう。		
展開	3 絵の中の人について、どんな人が伝え合う。 ・絵の中の人を選んで、その人の特徴をノートに書きましょう。 ・ペアでその人のことを説明し合いましょう。	・活動するまえに、例で確認することで、どの児童にも取り組みやすくさせる。 ・絵の中の人を選び、特徴をとらえてノートに書かせることで、必要な情報を整理させる。 ・3～5つの数を指定することで、本当に必要な情報を選べるようにする。 ★人物を特定するのに必要な情報は何かを考え、適切に見つける。 
まとめ	4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。 ・どの人かわかるためにどんなことを伝えるとよいでしょう。	・大事なことを落とさずに絵の中の人を説明しあっていたか、友達と相互評価させる。 ◇特徴をとらえて、絵の中の人を説明している。 （記述・発言）

◆ 成果と課題

【成果】

特徴の数を指定したことで、似たような特徴をもつ情報だけだと友達に伝わらないとわかり、本当に必要な情報を選ぼうという意欲が見られた。

【課題】

ペアでクイズ形式での発表だったため、分かりにくい特徴から伝える方がゲーム性は高まるという流れになった。本来「まいごを見つける」ためには、より分かりやすい特徴から伝える必要があった。

第2学年 算数科「さんかくやしかくの形をしらべよう」

◆本時の指導（第5時／全10時間）



(3) 本時の目標

長方形を構成要素に着目して見ることを通して、長方形の意味や性質を理解する。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 グループで不定形の紙を折り、四角形ができたことを確認する。 2 問題をとらえる。	・前時で直角を作った時と同じように、きちんと合わせることを、折り目をつけることを助言する。
	紙を折ってできた四角形のかどの形をしらべよう。	
展開	3 四角形の4つの角の形を調べ、全て直角であることを確認する。 4 用語「長方形」を知り、定義をまとめる。 5 めあてをとらえ、長方形の向かい合っている辺の長さを調べる。	・グループの四角形の4つの角が直角になっていることを確認させ、大きさや形が異なっても角が直角になっていることをとらえさせる。 ・四角形の大きさや置かれた向きに関わらず、全て長方形であることを確認する。 ・グループでの話し合いにおいて、付箋を使って考えを伝え、自分の考えを深める。
	長方形のとくちょうをしらべよう。	
		・さまざまな長方形を配り、四角形の大きさやおかれた向きに関わらず長方形であることを確認しながら、特徴を見つけさせる。 ★友達の長方形と自分の長方形を比べながら、長方形の意味や性質を見だし、説明している。 
		◇図形の置かれた位置に関係なく、長方形の意味や性質を見だし、説明している。(観察・記述)。(観察・記述) ◇長方形は4つのかどが直角になっている四角形で、対辺の長さが等しいことを理解している。(観察・記述)
まとめ	6 長方形の性質をまとめる。 長方形の向かい合っているへんの長さは同じ。	・対辺をそれぞれ色分けして図示し、2組の向かい合う辺が同じ長さであることをとらえやすくする。

◆ 成果と課題

【成果】

本時の展開において、児童一人一人に異なる長方形を配布した。それにより、児童同士で長方形を見比べながら長方形の辺の長さをはかる活動を行い、積極的な交流が図れた。図形は上級学年でも取り扱うため、本時の内容の定着に努めたい。

【課題】

まだ長さを測ることが定着していない児童にとってはレベルが高かったため、指導の手だてが必要であった。長さを図らずとも、紙を重ねて長さを比べたり、半分に折って調べたり様々な方法を引き出すなど、自力解決に多様な意見が出るとよかった。

第2学年 国語科「かん字の広場」

◆本時の指導（第1時／全2時間）



(1)本時の目標

数を表す言葉を、漢字を使って書き、語のつながりや数詞に気を付けて、算数の問題を作ることが出来る。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 教科書の絵を見て、漢字の読み方を確認し、町の様子や人々のしていることを想像する。 2 本時のめあてを確認する。	・ものにあった数詞（本→さつ、花→たば）を意識させる。 ・電子黒板に教科書を映しながら、数に関する情報を確認する。
	絵の中のことばをつかって、算数のもんだいを作ろう。	
展開	3 例文を読み、文の書き方を学ぶ。 4 絵の中の言葉を使って算数の問題を作る。 ・おべんとうは一つ六百円です。千円札でお金をはらうと、おつりはいくらでしょう。 ・ねこが五ひき、犬が二ひきいます。後から犬が三ひききました。あわせて何ひきのどうぶつがいますか。 5 作った問題を交換して読み合う。	・子供たちとやり取りをしながら、全体で問題を作り、書き方を確認する。 ・友達と読み合うことを伝え、児童の意欲を高める。 ・語と語のつながりや数詞を正しく使うように意識させる。 ★友達の作った問題を読み合いながら、よいところを見つけながら、クラス全体に発表する問題を決める。
まとめ	6 本時の学習を振り返る。	・同じ漢字を使っても、ちがう文章ができることに気づかせる。 ◇数を表す言葉を、漢字を使って書き、語のつながりや数詞に気を付けて、算数の問題を作っている。（プリント）



◆ 成果と課題

【成果】

先に短冊に書かれた数詞を見せることで、どんな場面の数詞なのだろうと想像し合うことができ、意欲を高めることができた。

【課題】

設定場面が少ないので、いろいろな問題が展開しにくかった。せっかく友達と発表し合う機会があっても、同じ問題になってしまったので、もう少しいろいろな場面を設定したほうが伝えたいという子供の意欲が高まると感じた。

第2学年 算数科「九九をつくろう」

◆本時の指導（第9時／全17時間）



(1)本時の目標

9の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 問題を把握する。	・8の段のときと同様に、積が9ずつ増えそうだという見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 9のだんの九九の作りかたを考えよう。 </div>
	2 9の段の九九を工夫してつくる。	・既習の乗法の性質やきまりを活用して、色々な方法で9の段の九九の構成の仕方を考えさせる。 ・多様な考えで九九を構成していることを認め、デジタル教科書のアレイ図で確認させる。（電子黒板） ★これまでの学習を基に、9の段の九九の構成の仕方を考え、自分の言葉でまとめることができる。
展開	3 9の段の九九の構成の仕方を発表し、それぞれの考えについて発表し合う。	・教師が分けた片仮名で書く言葉の4つの仲間を見分けさせる。（電子黒板） ◇乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、9の段の九九の構成の仕方考え、説明している。（ノート・発言）
	4 九九表に9の段の九九の答えを書く。	★これまでの学習を基に考えた9の段の九九の構成の仕方を、相手に分かるように伝えることができる。 ・乗法の意味や性質、交換法則、分配法則を使うと、9の段の九九を構成することができることを確認させる。
まとめ	5 これまでに見つけた色々なきまりをつかって、9の段の九九を構成したことを価値付けまとめる。	

◆ 成果と課題

【成果】

前時までに見付けたきまりを意識し考えさせることで、課題に対して意欲的に解決していこうとする姿が見られた。そのため、友達に考えを伝えていこうとする意欲も高まった。

【課題】

友達が発表した考えをより受け止めていけるように、発表したことを別の誰かに説明してもらう活動を取り入れるとよかった。

第2学年 音楽科「おまつりの音楽」

◆本時の指導（第1時／全2時間）



(1)本時の目標

“太鼓のリズム”をもとに間奏のリズムをつくろう。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 「村まつり」を歌詞唱する。 ・1番から3番まで、歌詞から情景を思い浮かべながら歌う。	・歌詞の中に出てくる楽器の音を表す言葉意識し、動作をつけながら歌うようにする。
展開	2 いろいろな太鼓の音を聴く。 ・おまつりで使われている太鼓の写真を見たり、音を聴いたりする。	・長胴太鼓、締め太鼓の演奏動画を見て、日本の太鼓に興味をもてるようにする。
	歌と歌を太鼓のリズムでつなげよう。	
	3 “太鼓のリズム”のリズムカードを見ながら手拍子する。 ・5つのリズムカードを見ながら全員で手拍子する。 ・5つのリズムカードを組み合わせて4小節のリズムをつくる。 ・つくったリズムを全員で手拍子する。	・教師が前で一緒に手拍子し、全員が手拍子できるように支援する。 ・5種類のリズムカードを2枚ずつ用意し、いろいろな組み合わせが試せるようにする。 ・リズムカードには「ドン」や「ウン」などの言葉も明記し、言いながら手拍子するようにする。
4 歌と歌の間でつくったリズムを手拍子してつなげる。 ・歌のグループと手拍子のグループに分けて合わせる。	★リズムカードを手がかりにして、4小節のリズムをつくる。 ・最初はクラスを半々に分けて行い、徐々に人数を減らしながら、聴き合えるようにする。	
まとめ	5 次時は、つくったリズムを太鼓で演奏することを知る。	◇太鼓のリズムをもとに音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的に取り組もうとしている。（行動観察） ・学校にある締め太鼓を紹介し、次時への期待を高めるようにする。

◆ 成果と課題

【成果】

“太鼓のリズム”を5種類（2枚ずつ）用意し、それを置き換えながらつなげ方を考えたり修正したりできるようにしたことで、全員がつくる活動に主体的に取り組めた。

【課題】

リズムカードを見て、それを手拍子できるようになっていれば自分で試行錯誤しながらつくれるようになる。そのためにもリズム活動を常時活動などで取り入れていく必要がある。

第2学年 道徳科「しょうかいします」

◆本時の指導



(1)本時の目標

自分の学校を紹介する「ぼく」の姿を通して、自分たちの学校のいいところはどんな所かについて考えさせ、学校や学級での生活を楽しくしようとする心情を育てる。

【C よりよい学校生活、集団生活の充実】

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<p>1 これまでの自分の経験を振り返る。</p> <p>・学校は自分にとってどんなところかを発表する。</p>	<p>・電子黒板に、学校の外観を写した写真を拡大提示する。</p>
<p>自分たちの学校の「いいところ」は、どんなところでしょう。</p>		
展開	<p>2 「しょうかいします」を読んで話し合う。</p>	<p>・「ぼく」の学校への思いを見つめさせる。</p> <p>・児童の発表を「場所」や「人」「時間」などに分類しながら整理する。</p> <p>・児童自身が、自分の学校について、「場所」や「人」「時間」など、さまざまな視点から考えられるようにする。</p> <p>・ワークシートに自分の考えを書かせてから発表させる。</p> <p>★自分が普段過ごしている学校には、どんなよさがあるだろうか、どんな人たちに自分の学校生活が支えられているだろうかなどと、自己を見つめている。</p> <p>自分が考える学校のよさと、友達が考える学校のよさは、同じところや違うところがあることに気づき、新たな視点を見つけている。</p> 
まとめ	<p>3 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・学校をもっと過ごしやすいところのために自分にどんなことができるかを考えさせる。</p>

◆ 成果と課題

【成果】

自分自身の学校への思いを見つめさせることで、学校生活の楽しさや学校への親しみの気持ちを高めることができた。また、たくさんの意見を出したことで、自分が思っていた学校のよさの他にも気が付くことができた。友達の考えを聞き合うことで、そのよさを更に広げていこうとする姿が見られた。

【課題】

道徳科の授業で学校生活の楽しさや学校への親しみの気持ちを高めることで終わるのではなく、毎日の生活の中でも折を見て学校生活に楽しさやよさに触れていき、学校や学級での生活をより楽しくしようとする心情を今後も育てていく必要がある。

第2学年 道徳科「なかよしだけど」

◆本時の指導



(4) 本時の目標

相手も自分も気持ちよく過ごすために大切なことについて考えさせ、時と場に応じた気持ちのよい挨拶や振る舞いをしようとする実践意欲と態度を育てる。【B 礼儀】

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 友達の家遊びに行った時の自分の行動について思い出す。 2 題材を捉え、見通しをもつ。	・遊びに行った時の行動を実演することによって、本時に対して自分事として捉えることができるようにする。
	あいても自分も気持ちよく過ごすために大切なことは、なんでしょう。	
展開	3 「ぼく」が友達のどんなところを「何か、へんだな。」と思ったのかを考える。 4 「ぼく」の家遊びに来た友達は、どうすればよかったのかを話し合い、考える。	・礼儀正しい態度とはどのようなものなのかについて具体的に考えさせる。 ・礼儀正しくする必要があるのか発問し、友達への批判で終わらないようにする。 ・グループでの話し合いにおいて、付箋を使って考えを伝え、自分の考えを深める。 ★自分の考えをもって友達に伝えるとともに、友達の考えを知ることができるように、進んで話し合いをする。 
まとめ	5 相手も自分も気持ちよく過ごすために、今後どのようなことをしようと思うのか考える。	◇時と場に応じた気持ちのよい挨拶や振る舞いをしていくかと、自分を見つめている。(ワークシート・発言)

◆ 成果と課題

【成果】

本時の展開において、児童は自分の考えと友達の考えを伝えあうことの大切さを実感することができた。また、自分と同じ考えが出たときに意見をまとめようとする姿もみられた。多くの児童が今までの自分を振り返り、様々な場面で礼儀正しい行動ができるようにしたいと考えることができた。4月には初めてのクラス替えがあることをふまえて、相手も自分も気持ちよくすごすことができる環境を自分たちでつくってほしい。

【課題】

活動を多く取り入れたため、授業後半では気持ちの切り替えがすばやくできず、まとめまで通うことができなかった。進んで話し合いを行うためには、すぐに切り替えをする指導の徹底が必要だった。また、グループ活動の中で、役割をもたせるとすすんで自分の意見を話すことにつながるため、次学年のためにも他の授業でグループ活動を取り入れていく。

第2学年 道徳科「黄色いベンチ」

◆本時の指導（第1時／全1時間）



(1)本時の目標

みんなで使うものを使うときに大切なことは何かについて考えさせ、みんなが使うものを大切にしようとする実践意欲と態度を育てる。【C 規則の尊重】

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 約束、きまりとは何か考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで使うもののきまりとは何かがあるか振り返る。
	みんなでつかうものを つかうときに 大切なことはなんでしょう。	
展開	2 「黄色いベンチ」を読んで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・たかしとてつおがどんな気持ちでベンチにのったのか考えさせる。 ・なぜ、ふたりは「はっ」として、顔を見合わせたのかを考える。 ・二人は、この後、どうしたと思うかを考える。 ・二人のいいところを考える。 3 きまりはどうして守らなくてはいけないのか考えて、ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・顔マークで二人の心情をとらえていく。 ・子どもたちから意見を聞いた後、 <ul style="list-style-type: none"> A 怒られるから B おうちの人にきかなくては C よごしちゃいけないんだ の 3択で全員に問うことで、全体を把握する。 ・登場人物の行動を考えることで、より良い行動がどうあるべきか自分の重ねながら考えさせる。 ・自分たちがしてしまったことに気づくことができている二人に着目する。 ・二人のその後の行動とそうしたことにより二人の変化した心情、表情とベンチの上ののった時の心情、表情を比較させる。 ★「きまり」は、どうして守らなくてはいけないか話し合いから気付いたり、考えたりしている。
まとめ	4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで使うものを使うときにどんなことに気を付ければいいのか考えさせる。



◆ 成果と課題

【成果】

導入で、みんなで使うものをつかう時のきまりをいくつかあげさせることで、教材の場面だけではなく、自分の日常の似たことを通して考えることができた。

登場人物の心情を顔マークでとらえさせることにより、同じ顔マークでもはじめとおわりの気持ちの違いに気が付くことができた。

【課題】

「きまりを守ること」と「身近なものの扱い方」と二つを考えさせることになり、児童の思考を混乱させてしまった。ねらいをしっかりと絞るべきだった。